

私 は こ う 思 う

循環型社会の

実現めざして

ジャパンテック㈱

社長 古澤 栄一さん



PETボトルリサイクルは消費者の皆様一人ひとりの協力で成り立っています。リサイクルは廃棄物を削減し不法投棄をなくすという大きな目的があるのはもちろんのこと、リサイクル原料から繊維製品や卵パックなどに生まれ変わる貴重な地上資源です。県内では年間約6000トンのPETボトルが回収されます。国内でリサイクルすることで、CO<sub>2</sub>はなんと約4320トンを減らすことができます。日本が高い削減目標を掲げる中、その取組みに大きく貢献できると考えています。

各地の自治体などから運び込まれたペットボトル(ジャパンテック)

自動車の内装品などに生まれ変わるペットボトルのきれいなフレーク(ジャパンテック)



ペットボトルを再生して作ったベンチ(上)と作業服(右)  
(ジャパンテック)

機械選別のあと、人間の目で最終チェック(ジャパンテック)

ペットボトルを再生

ジャパンテック㈱(鹿沼市)

ペットボトルは最も身近にあるプラスチックで、その消費量は1人あたり年間160本といわれています。ペットボトルを処理し、プラスチックの原料として製品化している工場が鹿沼市にあります。宇都宮西中核工業団地内にあるジャパンテック㈱です。ここには県内外の市町村保管施設などから、たくさんのお客様のペットボトルが運び込まれます。分別収集され、工場に運び込まれたペットボトルには、まだたくさんの異物が混入しています。X線で塩ビのボトルを、CCDカメラで着色ボトルを選別して除去し、さらに金属探知機を使って非鉄金属も分離します。最後に人の手によって最終チェックが行われます。

不純物を取り除いたペットボトルは細かく粉碎し、洗浄します。フレークの再生PET樹脂はさらに加工され、ポリエステル繊維や卵パックなどのプラスチック製品の製造工場などに出荷しています。

なお、今回取材させていただいた3つの中間処理施設は、一般の方の工場見学を受け付けています。見学をご希望の方は、各施設にお問い合わせください。

(問い合わせ)

●ダイセキ 0283(24)8006

●大貴 0285(80)401

●ジャパンテック 0289(85)7988